

## 人魚構文

角田太作氏と彼の国立国語研究所の研究グループによると、日本語およびアジアのいくつかの言語に「人魚構文」と呼ばれる構文がある。例えば、「花子は明日学校に行く予定だ」のような文である。前半部(上半身)はそれだけで文として成立する「花子は明日学校に行く」という節なのだが、後半部(下半身)は「予定だ」という名詞と述部の標識から成っている。花子は人であり、予定ではないのだが、「花子には予定がある」と解釈される。特に日本語にはこの構文の後半部に使うことができる名詞および名詞から発展したと思われる形式が多い。人魚構文はアジアの地域の言語に見られる特徴の1つであると考えられてきたようである。

しかし、明らかな例は2つのタイプだけとはいえ、この構文は Sidaama 語にも存在する。「…が…する様子だ／ようだ」に相当する構文である。名詞 *gara* 「様子、方法」または後接語 =*gede* 「よう(に)」を使い、最後に述部の標識が来る。

- (1) *dīwan-tino gara-i=te.*  
病気になる-3人称単数女性が/完了 様子-の=述部標識女性  
「彼女が病気になる様子だ/現在病気になる様子だ。」
- (2) *dīwan-tino=gede-e=te.*  
病気になる-3人称単数女性が/完了=ように-長母音化=述部標識女性  
「彼女が病気になるようだ/現在病気になるようだ。」

ただし、日本語の人魚構文とは違って、Sidaama 語の2つの人魚構文では、主語は3人称で、たいてい人

間であり、節の動詞のアスペクトは制限されている。

角田氏によると、ある言語に少数の人魚構文がある場合、その人魚構文が表す意味は証拠性(どのように話し手が出来事の情報を得たか)に関するものであることが多いそうである。Sidaama 語の2つの人魚構文はまさにこの傾向に当てはまる。

Sidaama 語は基本的に話し言葉で、書かれた記録がないので、これらの構文の歴史的な発展の詳細についてははっきりとはわからない。Sidaama 語が話されているエチオピアがアジアに地理的に遠くないということも、これらの構文の存在に関係しているのかもしれない。

ところが他の用法も見てみると、*gara* も =*gede* も名詞から文法的な形態素へと発展して行く文法化の過程にあるのがわかる。名詞 *gara* は名詞としての性質をすべて備えている(例:文法的な性を持つ、修飾される、属格で使われる)が、文法的な機能も果たす(例:様態や原因や譲歩を表す節を形成する)。後接語 =*gede* は主に文法的な機能も果たす(例:様態や原因や譲歩だけでなく目的を表す節を形成する、補文標識として使われる)が、名詞としての性質も持っている(例:尊格道具格と与格場所格の接尾辞を伴うことができる)。したがって、人魚構文を持つ他の言語と同様に、名詞が文法的な標識に発展するというパターンがこの言語の人魚構文にも見られる。

### 表紙写真 について

## 台湾ランタンフェスティバル

冨木一馬 Saeki Kazuma

台湾は世界でも有数の花火王国です。日本のように納涼花火の文化はありませんが、何かあるごとに花火を打ち上げます。特に祭りには花火は付き物のようです。

台湾は道教が主な宗教で、日本と言う神社とお寺の中間的な要素の「廟」がたくさんあります。例えば台東市だけでも300近く、<sup>ひょう</sup>元宵節(旧暦の1月15日)には半数以上の廟で祭りが行われ、花火や爆竹が使われます。日本のように警察官や警備員は立っておりません。表紙の写真でもわかるように、本堂

に目の前で平然と花火が上げられます。

この写真は同じ元宵節に行われる「ランタンフェスティバル」の花火です。ランタンは台湾の元宵節の古くからの文化で、<sup>ロン</sup>旧暦の15日に<sup>ジャンスー</sup>龍山寺や<sup>ワンジャン</sup>松山慈祐宮、台北北投<sup>タイペイ</sup>關渡宮や<sup>ワンホウ</sup>萬華青山宮など多くの廟で展示されていたものです。この日は爆竹や花火を上げたり、手に松明やランタンを持ったりして「家族皆が幸せに過ごせますように」という願いを込めます。古くは各廟を、ランタンを見て廻ったものですが、地域

のランタンを一同に集めて見てもらったかどうかという趣旨の下、1990年から「ランタンフェスティバル」が始まりました。この祭りは台北を始め、各主要都市で毎年行われ、多くのイベントとともに花火が打ち上げられます。この日だけでも台湾国内の1000ヶ所近くで打ち上げられ、台東市に出かけた時などは市の中心部にいると四方八方から花火が上がって撮影するのに困ったほどでした。台湾人は日本人以上に花火好きなのかもしれません。

